



学院時報

No.100

令和5年3月1日発行

聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校

中学校・高等学校

〒980-0874

仙台市青葉区角五郎2-2-14

URL: <http://www.dominic.ac.jp>

TEL 022(222)6337

FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園

〒981-0914

青葉区堤通雨宮町11-11

TEL 022(234)3615

FAX 022(342)0555

新たな希望

聖ドミニコ学院理事長 小笠原朋之



昨年、北新報の切り抜きを整理していたところ、二〇一九年（令和元年）七月二十六日（金）付けの記事が出てきた。見出しは「来年度から中学共学化 聖ドミニコ学院」。

記事は、「学校法人聖ドミニコ学院は、二〇二〇年度から中学校を男女共学化する。経営する幼稚園と小中学校が共学、高校のみが女子校となる。カトリックの教えに基づく建学の精神を九年間の義務教育で定着させる狙いに加え、男子児童の保護者からも要望があった。小中の連携を強化し、男女とも進学しやすい環境を整える。高校共学化は現時点では未定。小笠原理事長は「中学共学化は試金石。来年度の様子を見ながら検討する。」と話す。中学校は一九八一年から生徒の募集を停止していたが〇九年に再開した」（一部抜粋）と書かれていた。

中学校共学元年（令和二年）度、男子二名・女子十四名が入学した。その後、男子二名が転入学し、男子四名・女子十四名となっている。中学校共学二年目（令和三年）度は、男子が九名に増え、女子十一名と合わせ、二十名が入学した。中学校共学三年目にあたる令和四年度は、男子二名、女子十二名が入学し、三学年

コロナ禍で考えたこと

中学校高等学校校長 Sr 柚木 洋子



「教育に携わる人たちが、信頼される証し人となつて、競争ではなく友愛を育みながら、とりわけ幼く傷つきやすい者の助けとなる

そろって共学化が完成した。中学校全体の在籍数は、男子十五名・女子三十六名（計五十一名）である。共学化により運動部に入学する男子が活躍し、バトミントン部は初の県大会出場を果たした。また、校内の行事や生徒会活動・ボランティア活動においても中学生がはつらつとした動きを見せ、大いに盛り上げている。さらに今年度、剣道部が県大会、東北大会を制覇し、全国大会で準優勝した。聖ドミニコ学院中学校初の快挙である。

令和五年、中学校共学化の一期生が高校へ進学する。女子校として歩んできた高校もこのタイミングで男女共学化への道を切り開くこととした。現在、高校は特別進学コース、総合進学コースと未来探究進学コースからなる。まず特別進学コース、総合進学コースで男子を受け入れ、あせらず・やすまず・あきらめず、夢をかたちにしていきたい。

同窓生、幼小中高の保護者、学院の関係者そして地域の皆さま方のご理解とご協力を切にお願いします。

「教育に携わる人たちが、信頼される証し人となつて、競争ではなく友愛を育みながら、とりわけ幼く傷つきやすい者の助けとなる

ことができませんように」とは教皇フランシスコの祈りの意向です。

コロナ禍となり三年が経ち、バンドミックから一体何を学んだかと問われると一つのことが思い浮かびます。フランス等では外出規制下、自分たちの生活を支えるエッセンシャル・ワーカーに敬意を表して毎晩八時に窓辺に立ち、拍手を送っていました。修道会でも自宅に戻れない医療従事者のためにバリのアパートを開放し、五つ星レストランのシェフは腕が落ちないようにと仕出しを病院に差し入れていました。

一方、日本では医療従事者を親に持つ東京の小学生のいじめが報道され、驚いた方も多かったと思います。日本社会の求めている価値観と私たちの教育が問われていると感じました。

現実世界を理解する際、狭い自身の視点を広げ、他者への想像力を持つことが必要で、そこから対話や共生が可能になってくると思います。聖ドミニコが対話の人と呼ばれるように、異なる立場と見解を持つ人間同士が、相互理解への努力を諦めることなく、互いに相手かけがえのない存在としてその意見に耳を傾け、理解に努める姿勢を培っていくことができませんように。同時に、矛盾するようではありますが、お互いに理解し尽くすことはできないという不可侵性への深い敬意といったものも弁える必要があると思います。

生徒の皆さんが、人や社会、自然との友愛のかけ橋となつてくださることを願ひ、お祈りいたします。

全国大会当日は、予定していたメンバー三六名全員が、笑顔いっぱい、最高の集中力をもって、美しく輝く虹の様なハーモニーを響かせることができた。

合唱顧問 齋藤 朋枝

コロナ禍三年目の中で迎えたコンクールシーズン、子供達が心身ともに健康でいられることの素晴らしさと、それを維持することの難しさに直面した。練習回数の個人差が徐々に大きくなり、ハーモニーの全貌が見えないままの練習には、最後まで不安は尽きなかった。しかし、合唱に対してビュアに、そして情熱的に向き合える子供達の根つこの力はなんと力強い。最後はその根つこが踏ん張り、自分達の夢を実現させる様な『奇跡』をおこせたのだと思う。

【歌える場所

は当たり前前にあるのではなく、自分達の思いと、それを理解し、協力して下さる方々の思いがあつて生まれる『特別な場所』であること。いつも『感謝』を忘れずに、喜びをもつて歌うこと【子供達とともに得られたこ



賞よりも嬉しい宝物である。学院の皆様方のあたたかい応援に感謝の気持ちでいっぱい。私達の歌声で沢山の方々に幸せを届けられる合唱を目指し、これからも楽しく、一生懸命に歌っていききたい。

♪第九回卒業演奏会のご案内

令和五年 三月二十六日（日）

開場 十三時半

開演 十四時

会場 聖ドミニコ学院 聖堂

※学院内外のお客様のご来場を、心よりお待ちしております。

ぜひ、足を運んで頂けたら幸いです。

聖書のいよば

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(ローマの信徒への手紙12章13節)

私たちは日々の生活の中で様々な苦しみや痛みを経験します。なぜ神様はこのように試練を？と思うこともあるでしょう。私にとつてそれは母の突然の帰天でした。人生で最も辛い出来事でした。しかし、同じ経験をした友人が心から寄り添い共に泣いてくれたことが何よりの癒しになりました。私は自分の経験した苦しみのすべてを納得して受け入れることはまだできませんが、その友人を見て、私も同じような痛みを担った他者のために生きていきたいと思えました。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣くことは簡単なことではありませんが、その愛の行動に癒され、励まされる人は必ずいるでしょう。イエス様が私たちの苦しみに心を痛め寄り添ってくださっているように、私たちが喜びや苦しみの経験を大切にしながら寄り添い合っていきたいものです。

小学校 宗教担当 杉田 麗愛

幼稚園

運動会

十月一日(土)は、さわやかな秋晴れの中で運動会を行いました。子どもたちは、運動会で保護者の方に成長した姿をお見せするために一生懸命練習してきました。当日は、全園児によるかけっこから始まり、年限ごとに練習してきた演技を披露しました。満三歳児は親子でフルーツのお面を被り「フルフルフルーツ」を、年少さんはおさるさんの格好をして「さるさるさるダンス」を踊りました。年中さんは、みんなの心をひとつにし、息の合ったパラバルーンを披露しました。最学年である年長さんは、「縄跳び・組体操・ダンス」の三部作を披露しました。さすがは年長さんと思わせる演技でした。どの年限も、日々の練習の成果を十分に発揮することができました。子どもたちからは、運動会が終わったあとも「また運動会したいなあ」という言葉が聞こえてきて、楽しい一日になったようです。保護者の皆さま、温かいご声援をありがとうございました。



高校生さんとの交流

十二月十九日(月)にドミニコ学院の中学校・高校の生徒さんたちがホールに来て、子どもたちに楽しい遊びを提供してくださいました。今回のテーマは、トイストーリーでした。一人一人にキャラクターの被り物を事前に準備してくださり、各クラスであみだくじやくじ引きで被り物を選び、前週から交流する日を楽しみにしていました。

当日になり、被り物を付け準備万端の子どもたち。ホールに入り、生徒さんが用意してくださった可愛らしい遊びを見て、子どもたちの目はとてもキラキラしていました。お片付けパズル、黒髭危機一髪、釣り、ボーリングなど工夫が凝らされた遊びをスタンプレリー形式で回りました。遊び方を教わり一緒に遊ぶ子や緊張して固まってしまいう子など様々な姿が見られました。あるコーナーでは生徒さんたちが手作りの紙粘土で作ったキャンディのキーホルダーがプレゼントされました。短い時間だったため、まだまだ遊びたい気持ちの子どもたちでした。

中学生・高校生のみなさん、ありがとうございました。



聖劇

十二月十日(土)に聖劇を行いました。今年度も新型コロナウイルス感染症予防対策のため、年中長と年少・満三歳児の二部に分かれてイエス様の生誕のお祝いをしました。年中長児では、緊張した姿も見られましたが、一人ひとりが与えられた役を大切に、イエス様誕生の喜びを保護者の方々に届けようと頑張っていました。貧しさの中でもたくさんの方々に祝福され愛されたイエス様の聖劇を通して、子どもたちも互いに優しさや勇気を持ちこれからは過ごしていけたらと願っています。

満三歳・年少児では、初めてクリスマスの本当の意味を知る子どもたちもあり、クリスマスについてみんなで考えるところから始まりました。歌や台詞を通してイエス様の誕生の喜びを感じ、みんなの心を一つに練習に励みました。当日は、緊張する姿もありましたが、一人一人が体全体を使って表現し、保護者の方々に喜びを伝えることができました。イエス様の誕生を心からお祝いし、見ている方も心温まる素敵な聖劇となりました。



十一年の「感謝」を

佐藤 史織

我が家の四歳ずつ年の離れた三兄弟の末子で、今春ついに卒園を迎えることとなり、一年通い続けた幼稚園も最後となりました。おっとりとして優しく、粘り強い長男、ニコニコ笑顔の裏で、こだわりある頑固な次男、そして誰とでも打ち解けるお調子者の三男。性格も園で取り組む「お仕事」もそれぞれ違う個性的な三兄弟。そんな三人は、兄弟や友達とケンカしても最後は必ず「ごめんなさい」と「いいよ」をお手伝いをしてもらったら「ありがとう」を、伝えることができる子に成長してくれました。

園長先生はじめ先生方がクラスの子どもだけでなく、全園児の名前を覚えてくださり、親も子どもにもあたたかく愛情と優しさをもって接し、「感謝」の心を教えてくださったおかげです。

「いつもようこんでいなさ〜い」絶えず祈りなさい〜すべてのことについて感謝しなさい〜我が家の三兄弟が何度となく、いつでもどこでも元気に笑顔で歌った歌が思い浮かびます。

十一年分の「感謝、ありがとう」を園と先生方と皆様に。



北仙台幼稚園

発表会

年少

「くれよんのくろくん」の絵本を元に劇を行いました。パネルシアターを用いての導入時から、子ども達は興味津々!!自分のやりたい役を選び、約一カ月練習に取り組んで本番に臨みました。

当日は、お父さんお母さんなどたくさんの方々の来園に大興奮!!やる気満々、ステージに向かいました。しかし、いざ幕が開くと、大勢の方々の迫力に大緊張!!練習時のような大きな声が出せなかった子もいましたが、自分の役になりきって、歌ったり、踊ったり、台詞を言ったり、最後迄一生懸命頑張ることが出来ました。

終了後、子ども達に感想を聞いてみると、「楽しかったー!お母さんがいたよ!!お父さんが手を振っていたー!」など結構余裕の様でした。

この練習を通して他のクラスの友達との関わりが増え、以前のより友だち関係に広がりが見られたり、関わりが深まってきたりしたようです。

また、どのクレヨンの色も大切のように、お友だちも一人一人大事な存在である事を感じてくれた様です。この大切なことを忘れる事なくこれからも成長してほしいと思います。

年中

年中児は「アリとキリギリス」の劇を行いました。「アリとキリギリス」の紙芝居を読んだときに「お腹空いてかわいそう」「アリさんご飯をあげて優しい」と気づいたことについて話している姿が見られ、子供たちは「困っている人がいたら助ける」と自分たちならどうするか考えていました。

子供たちは、それぞれ自分で選んだ役を大切にしながら楽しそうに練習に取り組んでいました。台詞を覚えるだけではなく、動きや歌等も沢山あり、難しそうにしている姿もありました。しかし、互いに教えあったり、良いところを認め合ったりしながら園児同士で協力し、やり遂げる姿が見られました。

劇の練習を通して、一つの物を友達と一緒にいう達成感、失敗を恐れず挑戦するという行動力や自信が身に付いているようでした。

思いやりの気持ちを持ち、相手の気持ちを考えることが、出来る優しい年長児になって欲しいと思いました。

年長

年長児の発表会ではイエス様のご誕生の様子を表した聖劇を行いました。「一番はじめのクリスマス」毎年、年長さんの演技する姿を見て、憧れの気持ちを持っていた子供たち。役決めは真剣そのもの、人数が多いところはジャンケン勝負で決定しました。第一希望の役になれなかったお友達もいましたが、どの役も大切な役だということを知り、責任を持って取り組んでいました。難しいセリフや歌にも挑戦し、最初はなかなかセリフが言えなかったり歌を覚えるまで時間がかかりました。練習を重ねる中で徐々に自覚が芽生え、友達同士で練習する姿が見られたり、褒め合ったり励まし合ったりする姿が見られるようになりました。また、その頃からひとつのものをみんなで成功させようとする気持ちが高まってきたように思います。

当日は、子供たちの気持ちがひとつになって、自信を持って堂々と演じる姿や誇らしい表情が印象的でした。



節分・豆まき

二月三日に豆まきを行いました。「鬼は外」を歌い、節分はどんな日か、どうして豆まきをするかお話を聞きました。その「鬼は外!福は内!」と豆をまく練習をして「もう大丈夫!」と思ったら、なんと赤鬼と緑鬼がやってきました!

一生懸命鬼に向かって豆を投げる子供たちの姿や、怖くて先生の後ろで泣いているお友達もいました。頑張って投げたおかげで、無事に鬼を退治することが出来ました。最後に鬼と仲直りをしながら元気いっぱい「鬼は内」を歌いました。少し怖い鬼だったけれど握手をして仲直りすることが出来ました。みんなの中の「いやいや鬼」「聞かんば鬼」「忘れんば鬼」を退治することが出来たかな?★



クリスマス礼拝会

十二月十六日に北仙台教会でクリスマス礼拝会を行いました。保護者の方と共に神様にお捧げをしながら礼拝会が始まりました。教会内はコーラス部の方々の美しい歌声や楽器の音色が響き渡っています。年長児代表による聖書朗読や待降節の「心の花束」を神様に捧げました。「心の花束」では、待降節の間、良い心を神様にプレゼントし取り組む姿が見られました。いつの間にか、いっぴいになった「心の花束」。子供たちの思いが神様に届いたことでしょう。保護者の方にも参加していただき、みなさんお祈りできたことが、子供たちも嬉しく貴重な時間になったようです。お忙しい中ご参加くださりありがとうございました。



七五三祝福式

十一月八日天候には恵まれ、北仙台教会でユ・チョンピル神父様の司式のもと「七五三祝福式」が行われました。入園・進級した四月の頃よりも、大きく成長したことに感謝をし、静かに手を合わせ入堂している子供たちの姿がありました。神父様のお話の後に共同祈願を行いました。お父様、お母様、周りの方々のおかげで大きくなれたことに感謝し、これからも私たちを導いていただけるように心を込めてお祈りを行いました。神父様からも、園児一人一人に祝福をして頂き、祝福していただいたメダいや鈴のプレゼントを園長先生や担任の先生から受け取っていました。メダイは学年ごと絵柄が異なり、違いに気づき目を輝かせながら嬉しそうにお友達と見せ合っている姿がありました。



小学校

はじめてのクリスマス礼拝会

聖ドミニコ学院小学校では、毎年十二月に全校でクリスマス礼拝会を実施し、キリストのご降誕をお祝いしています。

また、一か月前からキリストを迎えるための準備期間「待降節」を過ごし、子供たちは「思いやりのある言動を心がける」を目標に、自分ができることを実践し、カードに色を塗って努力を積み重ねてきました。

一年生にとっては、小学校で初めての待降節・クリスマス礼拝会です。クリスマスの本当の意味を知り、目標に向かって努力してきた一年生たちが、クリスマス礼拝会を終えて感じたことを感想用紙に書きました。



一年 赤松 春之介

一ばんうれしかったのは、ロザリオをもらったことです。キラキラ光る、水色のロザリオでした。だいにのりしたいです。

六年生とがっしょうだんのせいげきもきれいでした。

せんそうでこまっている人たちに、「一日でも早くせんそうがおわりますように」といういのりがといてほしいと思いました。

一年 五十嵐 文香

クリスマス礼拝会では、がっしょうだんのだごえがとてすてきでした。せいどういつぱいの、おきやくさまにも聞こえる大きなこえでうたっていたところがかつこいいなと思いました。

また、せいげきでは、イエス様のごたんじょうのようすがとてもわかりやすかったです。クリスマスのはんとうのいみを学ぶことができました。

一年 佐野 弘直

ぼくがクリスマスらしい会で心にのこったことは二つあります。一つ目はがっしょうだんの音がぐがきれいだっただこと。二つ目は、せいげきが本物のクリスマスのできごとのようでかんだうしたこと。たいこうせつカードでたてた目ひょうをまい日がなりました。

一年 原田 翔吾

ぼくは、クリスマスらしい会でかみさまのことをもつとすることができました。がっしょうだんと六年生がつくったせいげきがとてもすばらしかったです。



ハンドインハンド



政治、宗教などに関係なく、「手に手をとって」世界の子供たちの幸せを願い、今年も学校全体でユニセフ募金活動に参加しました。ユニセフの方に学校で出前授業をしていただき、その後、各家庭で募金活動を行いました。子供たちはただおうちの人からお金をもらって募金するのではなく、家のお手伝いをしてその代わりにもらったお金を募金したり、おやつを我慢してその分のお金を募金したりするなど、「痛み愛」を実践しました。ハンドインハンドの感想を二年生と四年生が書き記しました。

二年 白井 柚葉

わたしはこまっている人のことをしっかり考えながらへやのそうじができたと思います。ほ金したお金は食べ物を食べることができない子どものために使ってほしいです。できるなら今すぐにせんそうや何かのひがいでこまっている人のところに行き、たすけたいと思いました。

二年 反岡 隼杜

ぼくは、このお金でせかい中の子どもがまもれるのだと思えば募金活動をしていました。ぼくは世かい中でこまっている人や五才になる前になくなる子どものワクチンやベッドかななどをかうためにつかってほしいです。一人でも多く、せんそうからまもりたいたいです。

二年 石引 さくら

わたしは自分がつかった食事をあらうという目ひょうをたてました。生活の中でハンドインハンドのことをいしきしていたので、たく山あらって、たく山ほ金することができました。世かいの色いろな人のためにやくだてたらいいなと思いました。

二年 増村 青

ぼくは、毎日二回はお手伝いをしようといしきしてすこしました。土曜日や日曜日は、平日よりも多く三回から五回ほどお手伝いができました。みんながお手伝いをしたり、がまんしたりしてがんばってためたお金なので、くるしんでいる人が元気に楽しくすごせるようにつかってほしいです。



四年 角田 理緒

世界には安全な生活をおくることができない人が、沢山いることを思いました。だから、その人たちのためにもつと自分のできることをしたいです。この活動は関わる全ての人がハッピーな気持ちになれる活動なので、これからも続けていきたいです。

四年 熊谷 圭織

学校に行くことができない子どもたちや食べ

物を食べることができない子どもたちのことを考えた時に、自分たちは当たり前に行きたくて、生活できたりすることが、どんなに素晴らしいことなのかを感じることができました。今回の募金で、少しでも多くの子どもたちが救われるように祈ります。

四年 康 イナ

私は意欲的に募金に取り組むことができたと思います。お手伝いや節電などできる限りのことをしました。家族にもハンドインハンドのことを説明して募金してもらいました。このユニセフの募金をきっかけに、他の募金活動にも参加してみようと思いました。

四年 増村 悠

安全ではない暮らしをする子どもたちのことを考えながら募金をしました。募金するため、掃除、洗濯たみなどのお手伝いをしました。たった二円で栄養補給のカプセルを買うことができるということを思い返し、一円一円の重みをかみしめて募金しました。これからも募金活動に励んでいきたいです。

合唱団 全国大会を終えて

全日本合唱コンクール全国大会は十一月十三日に大阪府堺市であり、全国の三十九校が参加し歌声を響かせました。三大会連続の金賞受賞も果たした本校合唱団。
児童が本番を振り返って、書いた作文の抜粋です。

六年 石田 林太郎

今回のコンクールでの歌声は本当に満足いくものだったと思います。僕も含め、変声期などで声の調子がよくない人もいましたが、最後まで全員がきらめずに歌い続けることが出来ました。全員がそろって練習できたのはコンク

ル前とても少なかったもので、本当に不安でした。それでも、参加人数に関係なく、その時に参加しているメンバーで一生懸命にやり続けた練習は、【意味ある練習】につながっていたのだと、今改めて思います。下級生達も、自分のパートや役目に責任をもって歌えるように、しっかりと練習していました。そうした後輩達の成長が見られたことも、とても嬉しかったです。

五年 澁谷 心優

今回、仲間と大阪のホールで歌いできたこと、そして、朋枝先生から【ダイヤモンド賞】とほめてもらったことが、とてもうれしかったです。金賞を受賞できたことも喜びですが、誰か一人かけてしまったら、このドミニコハーモニーは届けられなかったもので、一人一人自信をもって楽しく歌えたことは、奇跡のように思います。私は、音をとるのが苦手なので、皆よりもいっぱい練習し、パートや仲間の声を支えられるようにこれからも頑張りたいです。また、五年生は他学年よりも団員数が少ないので、もっと力を合わせて、立派な最高学年になれるように、一生懸命練習していきたいです。
クラスの友達、家族、先生方のあたたかい応援のおかげで元気に楽しく歌うことが出来ました。本当にありがとうございました。

四年 成瀬 景都

全国大会に出場が決まってから、私は練習に行く回数を増やし、いつもよりもっと集中して練習に取り組みました。

本番当日、六年生は小学校生活最後のコンクールだったので、私達以上に色々な気持ちがあつたと思います。私もその気持ちが強く伝わったので、みんなで最高の演奏にしたいと思いました。リハーサルまでは緊張や不安もありましたが、本番のステージに立ち歌い出すとともに広いホールに声が響き、さっきまでの心配はどこかにいって、すごく楽しく歌うことが

できました。歌い終わった瞬間、仲間と一体になって歌えた！と、喜びがありました。

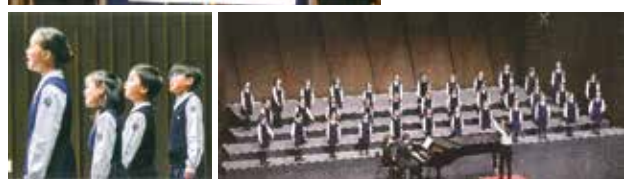
今回も六年生の大きな存在を感じましたが、私達下級生も頼りっぱなしにならず、役割に責任をもって歌える部分も増えたので、夏以上に、みんなで協力してつくりあげたドミニコハーモニーと思えたことがうれしかったです。

家族、先生方、応援して下さい下さった方々の支えがあつたからこそ、がんばれました。これからもそのことに感謝し、歌声をみがいていきたいです。

三年 酒谷 真桜

金賞がとれたのは、先ばい方に教わったことを生かして歌えたからだと思います。練習の時は、私の声をよく聞いてくれて、まちがっている音や発音などを見つけて、いつもいていねいに教えてくれました。本番では、高い声や低い声、自分のもっている色々な声で、ホール全体に聞こえるように歌う努力をしましたが、もっと声を大きく出せば良かったと思います。

これから、自分の声を成長させていくには、毎日の練習を積み重ねることが大切です。六年生になるまで、今の自分よりもきれいな声を出せるように、一生けんめい練習してがんばりたいです。



表敬訪問をしました

大阪遠征では、仙台市から旅費を支援していただき、貴重な経験をすることができました。十二月八日、合唱団六年生十名が仙台市役所を訪れ、郡和子市長、教育委員会の皆様に金賞受賞のご報告と、御礼を伝えてきました。

六年 松本 廉生

当日はとても緊張していて、心臓がとび出そうでしたが、団長として、団員全員の感謝の思いを伝えることができたと思います。挨拶では、市からの援助にとっても驚きましたが、それが僕達のやる気スイッチとなり、県代表としての使命感をよりいっそう強く自覚し、歌声を磨いたことを話しました。

また、本番では、一生懸命に頑張ってきたことを発揮でき、目標にできた金賞を頂き本当に嬉しかったこと、心がくじけそうな時もありましたが、仲間と合唱に向き合えた日々は大切な宝物であることもお伝えできました。市長、教育委員会の皆様は、すべての話を笑顔で聞いてくださり、「皆さんが心を一つにした成果。本当におめでとう。」と祝福も下さいました。

僕は今、『卒業まで下級生を支え、これまでの先輩方に追いつけるように努力していきたい』という気持ちです。そして、最高のハーモニーを届ける卒業演奏会を目指し、最後まで楽しく歌っていききたいです。



中学校

自慢のクラスメイト

三年A組担任 小野 景子



「今日から六月まで学校はお休みになりました」

期待にあふれていたはずの中学校生活は一転、まだ名前も知らないクラスメイトと次に会えたのは、画面越しのHRでした。そんなことが懐かしさを感じるほどに、失われた時間はあつという間に埋められていきました。毎日やり取りすることが当たり前だった聖書ノートも、得意気に披露されるギャグをさらりと受け流すことも、突拍子もなくあふれる愉快な言葉たちに、マスクの内側で口をゆがめながら笑いをこらえることも、もう終わりですね。

いよいよ最後を迎える中学校生活を振り返った時、その全てが楽しい思い出に満ちてはいなかったでしょう。毎日せわしなく訪れる感情の変化に涙が溢れたことも、友人との距離感に悩み、お互いの心に怪我を負わせ合ったことも、全部があなたにとってかけがえのない時間でした。その時間を一緒に乗り越え、支えてくれた大切な仲間がいたからこそ、今のあなたがあります。

いつも笑顔をくれた先生の自慢のみなさんへ。同じ教室で笑い合えることがあと少しと思うと寂しい気持ちでいっぱいですが、共に過ごした時間を宝物に変えて、あらたな場所で飛躍する十八人の未来が輝かしいものとなるよう、心からお祈りしています。

卒業によせて

三年A組副担任 藤原 江玲

学級というのは不思議なところなんです。性格はもちろん、得意なことや苦手なこと、育ってきた環境、抱えている課題、目指す進路…もっているものが皆違います。そんな生徒たちがひとつの教室で学ぶのです。その中で時には我慢したり、納得がいかなかったりすることもあるでしょう。また譲ってもらったり、手を貸してもらったりすることもあるでしょう。そうして助けたり、助けてもらったりしながら、成長していく。学校とは、学級とは、そんなところなのだということを生徒たちの姿から改めて教えられました。

それはこの三年間で、時にぶつかりあい、涙を流したりしながらも、一人一人が身につけてきた「他者を受け入れる力」が土台になっているのだらうと思います。それは人の間で生きていく上で、本当に大切なことです。そんな力を身につけた生徒たちはこれからどこへ行っても、与えられた環境を支えていく一員になると思います。未来への可能性に満ちあふれた三年A組十八名のみなさん、心よりおめでとう。そしてありがとう。

三年間を通して

三年A組 久保 莉梨子

「よく学び、よく遊んだ三年間」。中学校生活を一言で表すなら、私はこう表します。一年生のときは、とにかく新しい生活様式と中学校生活に慣れるのに必死でした。そして、常に元気でした。あまりに元気が

ぎたので、よく担任の景子先生から怒られたことを覚えています。

二年生で最も思い出に残っているのは、やはり野外活動です。洞窟探検で何回も頭をぶついたり、カヌー・カヤックで落ちたり…と、伝説の景子先生ダンスが誕生したり…と、楽しい出来事が色々ありました。三年生での思い出は修学旅行です。プリティッシュヒルズではほとんどが英語での会話だったため、大変なことも多かったですが、普段の学校生活では出来ない多くのことを体験できました。そして、より同級生のことを知るきっかけとなり、良い思い出となりました。

意見のすれ違いや喧嘩もありましたが、なんだかんだ言っても仲がいいクラスだと思っています。今の仲間と景子先生と江玲先生に出会えた奇跡に本当に感謝しています。楽しく、充実した中学校生活でした。



活躍するドミニコ生

【聖ドミニコ高等学校】

第四十五回ふれあい書道展

奨励賞

3年 遠藤 彩月
3年 大槻穂菜美
2年 黒瀧 楓日
2年 佐藤 桃香

第四十四回仙台市私立高等学校女子バレーボール秋季大会

スパイク賞

2年 佐々木愛奈

第七十五回全日本バレーボール高等学校選手権大会宮城県代表決定戦

ベスト8

バレーボール部

第四十一回宮城県高等学校放送コンテスト新人大会

ラジオキャンペーン部門

令和四年度剣道専門部優秀選手表彰

優秀選手（功労賞）

3年 菊地 彩加

3年 杉山愛好香

3年 山下 紗知

3年 庄司 心優

第三回ビクトリーカップ高等学校女子バレーボール交流大会

第3位

バレーボール部

第四十三回宮城県合唱アンサンブルコンテスト

セッター賞

2年 本木 菜々

第五十八回いわき市サンシャインカップ争奪

銅賞

音楽部

ウィンター大会高校女子バレーボール選手権大会

第2位

バレーボール部

第十一回創作絵本・デジタル絵本・紙芝居コンテスト

学校賞

聖ドミニコ学院高等学校

【聖ドミニコ中学校】

努力賞

2年 庄司 葵

令和四年度宮城県野書人会学生展

有隣堂賞

3年 竹野はるい

SEIBUNアートグランプリ2022

佳作賞

3年 坂本 真帆

第五十九回仙台市中学校弁論大会

優良賞

3年 澤村ななみ

第七十一回高田宮杯全日本中学校英語弁論大会

奨励賞

3年 久保利梨子

第七十一回仙台市中学校英語歌唱大会

奨励賞

3年 古田 一也

修 学 旅 行 だ よ り



修学旅行を振り返って

三年A組 澤村ななみ



私達中学三年生は十月十八日から三泊四日で福島県にあるブリティッシュヒルズに行きました。

いつもの環境とは違い、主に英語を話す時間が多くなるため、出発する前は大変そうだと考えていましたが、思っていたよりも自分たちの英語が通じて、コミュニケーションに困っていた場合にはネイティブティーチャーに優しく

修学旅行で学んだこと

三年A組 大泉 爽

私達中学三年生は、修学旅行として十月十八日から三泊四日で福島県にあるブリティッシュヒルズへ、他国の文化を学びに行きました。

特に思いに残った出来事は二つあります。一つ目は、クラスの皆と交流をして、仲を深めることができたことです。普段は見せないような一面を、修学旅行という機会で見ることができたのは嬉しかったです。二つ目は、二日目の夜に行われたチャレンジという授業です。チャレンジ

助けてもらいました。

授業では、普段あまり行動しない友達や男女関係なくペアやグループになり、授業に参加しました。分からないところがあったときは、クラスの人々に助けてもらったり、先生とジェスチャーで伝えあったりと柔らかい雰囲気でも楽しかったです。この修学旅行では、英語でコミュニケーションをとる力や、恥ずかしからずに質問する力が身につきました。そして、参加したクラスメイト全員で協力して問題を解いたり話したりすることができ、よりクラスの仲が深まったと感じました。残りの卒業までの期間も精一杯楽しみたいと思います。



授業とは、普段受けている授業より少し発展した内容で、この日の内容は「紙飛行機を折る手順をペアで協力してジェスチャーや英語で伝え合う」というものでした。普段は授業以外で英語やジェスチャーを使つて何かを伝えることが中々ないので、途中伝えるのが難しいと感じることはありましたが、自分の伝えたいことが相手に伝わって上手に折ることができた時、達成感で満ち溢れました。

今回の修学旅行で英語を学ぶ楽しさや、仲間とコミュニケーションをとる大切さを学ぶことができました。この四日間、ブリティッシュヒルズで経験した様々なことを今後の生活に生かしていこうと思います。



○ 第四十二回仙台市武道まつり剣道大会

第3位 2年 及川 文伽

○ 第七十回記念全国小中高児童生徒剣道大会

金賞 3年 石森 小遥

○ 令和四年度仙台市中学校新人大会 剣道競技

青葉区女子団体 優勝 (県大会出場) 剣道部

青葉区男子個人 優勝 1年 蟹澤 結介

青葉区一年女子個人 優勝 1年 橋本 倅

青葉区二年女子個人 優勝 2年 稲富 怜花

第2位 2年 稲富 悠花

○ 令和四年度仙台市中学校新人大会

バドミントン競技

青葉区女子個人 シングルス

第2位 (県大会出場) 1年 西村 真愛

○ 第六十一回宮城県造形教育作品展

特選 3年 坂本 真帆

○ 令和四年度仙台市「心の輪を広げる体験作文」

優秀賞 2年 稲富 怜花

○ 令和四年度仙台市「障害者週間ポスター」

優秀賞 2年 佐藤ひなた

○ 第六十八回仙台市児童生徒理科作品展

部会長賞 2年 森井 淳斗

○ 第九十回全国書画展覧会

金賞 2年 清野 喜花

○ 令和四年度仙台市中学校読書感想文コンクール

奨励賞 3年 竹野はるい

○ 第四十五回全国スポーツ少年団剣道交流大会

宮城県予選女子個人の部

優勝 (全国大会出場)

第2位 2年 稲富 悠花

第3位 2年 稲富 怜花

第3位 1年 橋本 望夢

ベスト8 2年 佐々木仁菜

○ 令和四年度第六回宮城県中学校新人剣道選抜大会

女子団体 優勝 (三連覇) 剣道部

男子個人 優勝

一年女子個人 ベスト8 1年 蟹澤 結介

二年女子個人 優勝 2年 稲富 悠花

第2位 2年 稲富 怜花

○ 令和四年度第九十回全国書画展覧会書の部

金賞 2年 清野 喜花

○ 宮城県中学校体育連盟剣道専門部 表彰

功績賞

3年 石森 小遥

3年 漆戸 虹恋

3年 日下 愛梨

3年 澤村ななみ

3年 澤村ななみ

3年 石森 小遥

3年 漆戸 虹恋

3年 日下 愛梨

3年 澤村ななみ

3年 澤村ななみ

3年 澤村ななみ

高等学校

卒業生に贈る言葉

第三学年主任 小野 尚



友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立つて行動するようになる。また、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

これは、幼児保育進学コース三年生が学ぶ「保育キャリア」の授業で配布された『幼稚園教育要領』の「幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の箇所」に書かれてあったものです。自己中心的で善悪の判断ができず、他者への共感力も不足している大人が増えています。社会が幼児化しているという話も聞きます。他者を思いやり、人の心の痛みが分かり、感謝の気持ちと奉仕の心を持った人を育てることが難しい社会は不幸です。皆さんは、互いを思いやる心、感謝する心、感動する心、奉仕する心を育んでください。高校卒業後、皆さんが進む道でさまざまな困難や苦労に心が折れそうになることがあるかもしれません。しかし、そんな時にも自分を信じ、高い志を持ち続けて、自らの役割を誠実に果たす自律した人間として頑張りたい。最後になりましたが、卒業おめでとうございませう。

三年間の集大成

ドミニコでの出会いを大切に

三年一組担任 大出 恭史



未知のウイルスの感染が国内でじわじわと広がりを見せていた入学当初。首相の突然の要請で始まった全国一斉休校。休校期間は四月から約二カ月に及び、オンライン授業で始まった不安な高校生活。あれから三年。全体的に物静かで穏やかな雰囲気のある三年一組の生徒たちは、少人数ながらお互い高め合いつつ、勉学はもちろんのこと、あらゆる学校行事で頑張っていました。生徒会に所属して学校運営に携わった生徒もいますし、各種学校行事にもクラス一丸となって本気で取り組んできました。今年度のドミニコ祭の「D

ーグランプリ」では大迫力のゴジラを制作し、本番も見事な連携と名演技で見事優勝することが出来ました。運動会や球技大会においても「チーム特進」の先輩として後輩たちを牽引する見事なリーダーシップを発揮していました。三年間で学力はもちろん忍耐力、コミュニケーション力などあらゆる力を磨き成長してきた生徒たちも三月で卒業。このドミニコでのかけがえない出会いを大切に今後も各々の夢実現に向けて歩んでいってほしいと願っています。

卒業する皆さんへ

三年二組担任 伊藤 崇



御卒業おめでとうございませう。皆さんとは、授業はもとより総合進学コースの担任として三年間関わらせていただきました。皆さんと過ごすことができた日々は本当に楽しく、時間の経つのがとても早く感じました。

思えば皆さんの高校生活には、「コロナ禍」という言葉と状況が絶えず存在していました。そのため様々な不安や不満に押しつぶされそうになったこともあったと思います。しかしそのような中でも、皆さんは決して心からふてくされことなく、現実を受け入れながらしなやかに日常を過ごしてきました。そんな皆さんに、私は心からの敬意を抱いています。

私が「聖書」の中で一番好きな一節に、「何事にも時があり、天の下の出来事には全て定められた時がある」という箇所があります。これは、人生の中で各々が遭遇する出来事には、その人にふさわしい時期と意味がある、ということであらわす言葉です。たとえば、皆さんがこのドミニコ学院に入学したこと、友人と過ごして楽しかったこと、行事等で頑張ったこと、一生懸命勉強して成績を伸ばしたこと、逆境の中でも三年間部活動が続けたこと、自分の進路目標の実現に向かって努力し続けたこと、などです。

私は、皆さんの過ごした高校三年間にはやはりそれを行うにふさわしい時期と意味があったのだ、と思っています。そして、そうした経験によって皆さんは確実に成長しました。だからどうか、これまで懸命に生きてきた自分自身を信じて、四月からの新生活に希望を持って大きく踏み出してください。

最後に、皆さんと出会えたことに心より感謝申し上げます。そして卒業後の皆さんの人生に、沢山の幸せがふりそそぐことをいつも祈っております。

一緒に歩いた三年間

三年三組担任 早坂 妙恵



見送られる側から、卒業生を見送る立場となり、感慨深いものを感じました。私は担任として何ができただろう、この子たちに何をしておあげたのだろうか、と三年間を振り返ると、私は三年三組の子どもたちと共に一緒に歩き、時には走ったり、立ち止まったり、またのんびり歩いたりといった時間を過ごしたのかなと思います。

むしろ、担任の私が立ち止まったり、ちょっと躓いた方が多かったかもしれません。そのたびに、「先生、大丈夫？」と声をかけてくれたことで救われた日もありました。私の担任としての三年間は、真面目で、素直で、優しい生徒と一緒に、支え合いながらの三年間であったと思います。

出会った人とのご縁を大切に、と言ったことを覚えていてますか。一年三組として出会ったことで結ばれたクラスメイトとのご縁、部活やボランティア活動で結ばれたご縁、そしてこれから出会うであろう新しい人々とのご縁を大切に、ありがとうございます。感謝の気持ちと言葉と共に、これから先の人生を歩んでいってほしいと思います。私はドミニコで皆さんの活躍を応援しています。三年間ありがとうございました。

人生は淡く甘く

三年四組担任 佐藤 正久



「人生は淡く甘く」。この言葉は我が家の家宝で、母方の祖父直筆の色紙に描かれた柿の実の絵とともに書かれた書の一節である。祖父は明治十三（一八八〇）年生まれ。

戦前の男尊女卑の世にあって、不条理な三下り半を夫に突き付けられた実母と幼くして引き裂かれるという不幸な生い立ちを経験している。成人後は温厚で寛容な七歳年下の妻（私の祖母）との間に十人の子宝に恵まれた。家族や親戚から慕われつつ、幸せな家庭を築いた。晩年は仙台市の男性最長寿者として教子子でもある仙台市長自ら自宅に御祝いの金杯を届けて下さるという栄誉を授かり、昭和五十八（一九八三）年、自宅で家族に見守られながら安らかに一〇三歳の天寿を全うした。祖父は私が人生の究極の目標とする人である。

今年一年間、生徒たちと、日々の学校生活や授業、行事、サブライズパーティーを共にする度、私の脳裏

にはこの祖父の人生が過るのである。若くして国民学校の校長に抜擢されながら保護者との衝突が原因で、傷心のうちに韓国の釜山近くの国民学校の校長として家族を引き連れて赴任。日韓併合の中にありながら韓国の人々にも慕われつつ、戦況悪化のために日韓双方の教え子や保護者に憎まれながら帰国。仙台空襲の直前には疎開先から父母悲しさに耐え切れず帰ってきたしまった幼い末娘（私の母）を、「今夜だけでも空襲になったらどうするんだ。即刻、疎開先へ帰れ。」と心を鬼にして追い返した祖父。節分の夜には、真っ暗な御座敷におやつをばら撒き、家族全員での争奪戦を催した祖父。不幸な生い立ちや人生の逆境に負けず、自分の家族をいつも大切に続けた。百年に渡る人生の中で「人生は苦めれば楽あり」と様々な経験を積み重ねて長寿を全うしたのである。

「高校生活の思い出」

三年二組 山下 紗知



私の高校生活の一番の思い出は、部活動です。新型コロナウイルスの影響で練習や大会がなくなり、思うようにならないことばかりで、不安と焦りの毎日でした。その中でも一、二年生の時に、インテハイと全国選抜に出場させていただき、多くの貴重な経験をすることができました。最後の大会では、納得のいかない結果に終わってしまい、正直悔しい気持ちしかありません。剣道に懸ける思いが強かったからこそ、挫折した時の気持ちも大きかったです。

しかし、毎日のように辞めたいと思っていた剣道を今まで続けることができたのは、ご指導してくださった先生方、いつも支えてくれた保護者の方々、そしてともに練習を乗り越えてきた仲間のおかげです。私にとって、楽しかったことも辛かったことも大切な思い出です。

何かに本気で取り組むことは、想像以上に変化を投げ出したくなることもあります。自分の成長に大きく繋がると実感しました。大学生になっても、今までの経験を活かし、目標を持って自分らしく頑張っていきたいと思っています。



各コースの1年を振り返って

着実な成長

特別進学コースリーダー

大出 恭史

コロナ禍も三年目となり、大学入学共通テストも導入から三年目を迎え、転換期と言われた三年前から翻弄された入試が続いていますが、本校特別進学コースは着実に進化してきていると感じています。週六日間で三七時間の授業に真剣に取り組む、着実に学力を上げていっている生徒たち。今年度の三年生からは既に本校では国立大学（宮城教育大学）の現役合格者を学校推薦型選抜にて一名輩出することができた他、総合型選抜と学校推薦型選抜も含めると、東北学院大学、宮城学院女子大学にも合格者が複数名出ました。この文章を書いている現段階で一般選抜受験組の生徒たちは大学入試佳境を迎えていますが、三年間の集大成として夢を実現してくれと信じています。

また、今年度も科目選択ガイダンス後の交流会や運動会、球技大会において、コースの縦割り活動も引き続き継続しており、「チーム特進」として生徒たちが取り組んでいる様子が印象的でした。四月から男女共学となる特進コースですが、今まで築き上げてきたものをさらに進化させ、発展させていきたいと思います。



高大連携授業

について

総合進学コースリーダー

伊藤 崇

今年度の総合進学コースでは、一・二年生を対象に、九月一日（金・六・七校時）に「高大連携授業」

を行いました。この授業は、大学の先生から実際の研究内容や進路について学ぶ模擬授業や体験活動を通して、上級学校に進学するための学習意欲を高めるためのコース行事です。今回は、講師として宮城大学事業構想学群准教授事業プランニング学類長である安藤裕先生に御来校いただき、「自分の将来を考えること」というテーマで、授業を行っていただきました。

生徒達は、自分の人生を考え続けることの大切さ、苦しさ、面白さなどを学びながら、今後の自分の進路を考えるヒントを得ていたように思います。安藤先生は心理学の研究者でもあり、これまでの様々な人生経験や人の性格や行動に関するトピックも交えながら、わかりやすく自分の将来について真剣に考える授業を展開していました。



未来探究進学コース

一年を振り返って

未来探究進学コースリーダー

石川 裕之

今年度からスタートした「未来探究進学コース」ですが、生徒たちはとても個性的で積極的、パワフルな一学年でした。NOTESプログラムの「探究プログラム」や河合塾が提供している学びみらいPASSの「LEADS」や「R・CAP」などに取り組み、さらにピアノレッスンや幼稚園のお手伝いボランティアにも活動的な取り組みを1年間継続してくれました。ドミニコ祭や運動会、球技大会などの学校行事へもとても積極的でしたし、普段の授業でも多くの先生方から反応があった授業が楽しいと言ってもらったことが多い生徒たちでした。今後、この前向きな取り組みが成績

に現れると嬉しいですね。

来年は「子ども教育系」「国際探究系」「情報系」と三つの系に分かれ、専門的な学びを深めながら自分の可能性を広げてくれると期待しています。また、新入生が入学してきたら、先輩としてアドバイス等をしてもらえればと考えています。生徒が自分の未来へはばたけるよう、我々教員も一緒に探究していきたいと思っています。



コロナ禍でも元気に活躍

幼児保育進学コースリーダー

佐藤 正久

新型コロナウイルスの影響が三年目に及んでしまった学校生活ですが、本校の幼児保育進学コースの生徒は皆元気に活動が続けられています。夏休み明けの十月に行われた角五郎及び北仙台幼稚園での運動会や芋掘り遠足、キッズプレイデー・仲良しタイム（一日入園）。十一月には角五郎幼稚園の園児たちを前に、「保育キャリア」や「絵画と造形」の実践を発表。十二月には未来探究進学コース一年生と幼児保育進学コース二・三年生の受講者によって一年間の成果が見事に披露されたピアノ発表会が行われました。冬休みを返上して角五郎幼稚園でのお預かり保育に参加する生徒達もいました。また、今年度は保育技術検定の上位合格者が目立ち、学年が上がるごとに上位の検定合格



において、高齢者を介護する人材とともに、日本の未来を託す子どもたちの世話や指導する保育者の存在意義は誰もが認めていることです。しかし、両分野とも仕事の大変さに比べて報酬やケアが不十分であることが人材不足の要因となっています。将来の保育現場を担う皆さん、保育者になる希望をもった時のことを忘れず、互いに励まし合いながら、子どもたちのために奮闘してください。

数多くの経験を糧に

キャリアデザインコースリーダー

戸田 兼博

最後の代となるキャリアデザインコースである二年生は、将来設計のためのキャリア教育をキャリアデザイン・ドミニコの森で大学や専門学校、先生の先生方、外部講師として講義をしていただいています。県内の学校の中でも数を多く実施しているキャリア教育を身に付けることに、人間性を鍛えるなど社会に通じる育成を行っています。例えば、二月に実施予定の「食育の結晶」コレットの秘密については、生徒が興味関心のある身近な「コレットの話題で知識から調理実習まで内容で行います。身近なことから視野を広げていくことが考えを養ううえで大事なポイントとなります。



令和五年三月卒業生（六十一回生）の進路状況

（令和5年2月14日現在）

【大学合格者】（25名）

宮城教育大学・東北医科薬科大学・東北学院大学（4）・仙台白百合女子大学（4）・宮城学院女子大学（5）・尚網学院大学（4）・東北福祉大学・東北文化学園大学・仙台大学・聖心女子大学・フェリス学院大学・酪農学園大学

【短期大学合格者】（7名）

聖和学園短期大学（5）・仙台青葉学院短期大学・創価女子短期大学

【専修学校・各種学校合格者】（14名）

仙台医師会看護専門学校・仙台こども専門学校・仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校・仙台ビューティーアート専門学校・仙台医療秘書福祉専門学校（2）・仙台医療福祉専門学校・仙台総合ペット専門学校・仙台デザイン&テクノロジー専門学校・東北電子専門学校・東北文化学園専門学校（2）・東京デザインナー学院・八千代リハビリテーション学院

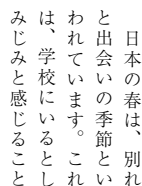
【就職内定者】（4名）

浪江町職員・株式会社ユーメディア・医療法人社団梢愛会やまうちクリニック・パーソナルチャレンジ株式会社

【その他】（1名）

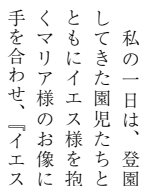
代々木アニメーション学院

小学校校長 土井 智子



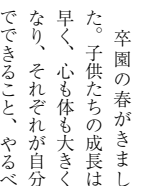
が多いように思います。私立小学校の教職員は転勤がないので、子供たちの入学から卒業までを見ることができます。あどけない表情をしていた子供たちの、思春期の入り口にさしかかるまでの六年間は、目まぐるしく変化する時でもあります。体格もすっかりしてき

園長 小笠原 朋之



様　マリア様　おはようございます。今日も「あかるく　つよく　ただしいこころ」で過ごすことができますようにおまもりください。とお祈りするところからはじまります。「あかるく　つよく　ただしく」とは、聖ドミニコ学院のモットーである「真理」を園児たちにわかりやすく伝える言葉です。また、毎日

北仙台幼稚園長 土井 浩喜



卒園の春がきた。子供たちの成長は早く、心も体も大きくなり、それぞれが自分でできること、やるべきことをしています。大人はそんな子供たちの姿に、希望と勇気ももらいます。初めての集団生活を経験した年少さん、年下の面倒を見るようになった年中さん、リーダーの役目を担った年長さん。その目覚ましい成長ぶりを見ることでできた私は、この時期の子供の

コロナ禍ということもあり、県外に在住する卒業生が学校を訪れる数はすいぶん減っています。それでも毎年数多くの卒業生が顔を見せられています。近況報告を聞いていると、それぞれが新しい環境の中で、時に苦勞しながらもしつかりと歩み始めているのがわかります。自分のことを見失わず、新しい目標に向けて努力を重ねていることを聞くことも、その成長ぶりに驚かされます。幼かった時のことを懐かしく思い出され、エピソードを語ると一緒に嬉しそうに思い出話を花を咲かせます。

の祈りをとおして、本園の特色であるキリスト教を土台とした一人ひとりが神様の大きな愛に包まれていること、大切な存在であることを自分に言い聞かせています。

さて冬休み明けのことです。あるクラス
の担任からお菓子が先生方に配られました。
ある年長児が冬休み中に「ご家族とデイズニ
ーランドへ行き、お土産として買ったお菓
子だ」ということです。しかも自分のお年玉で
買ったことでした。なんとという心遣い
い。大変うれしくなり、次の日お礼の言葉を
伝えました。お土産を届けてくれた園児に象
徴されるように、子どもたちは日々の関わり組
みをおして、ひとつのことをやり抜くこと
の大切さを学び、思いやりや意欲、あきらめ
ない粘り強さを育んでいきます。つい傍で見

教育の大切さをつくづく感じています。

キリスト教が目指す他を思いやる心や育成と、モンテッソーリ教育が目指す自立は、本園の保育の柱です。そしてそれは、幼稚園だけでなく、各ご家庭でも実践されています。毎年、待降節に世界の恵まれない子供たちのために募金を行っています。募金と共に持ってきた「心の花束」に書かれたメッセージに心を揺さぶられました。「お菓子を我慢しました」「お手伝いを忘れずに続けました」……まだ「食べ物を残さないようにしました」……まだ「字を書くことができない子供」の言葉を拾うように、「ご家庭で取り組んだことを、保護者のほうがカードいっぱい書いてくださっています。た。幼児期は自分中心に世の中が回っている

今年も、卒業の季節がやってきました。成長目まぐるしいこの時期を、大切にしたいと願っています。たくさんの人に出会い、たくさんさんの書物に触れ、学びの追究を進めたいと願っています。学びはいつでもできますが、若い時代の柔らかな感性を持つ時間、はかがえのないものです。一人ひとりが、自分の人生に責任をもって生きなければなりません。感謝の心を忘れず、相手を大切にする生き方をすることで、人生を豊かなものにしてほしいと願っています。

幼い時代を過ごした小学校に、成長した姿を見せられることを、楽しみに待っています。また、お会いしましょう。

ていて、大変そうだなと思い、手を貸そうとしてもその手を振り払い、自分でやるという意志を示します。難しいことにも挑戦し、やり遂げたときに得られる達成感の積み重ねが成長につながっています。その姿を目の当たりにできる幸せを味わっています。

これからも園児とともに往う日々の祈りを
とおして、子どもたちへの声掛け、話すとき
の間の取り方、子どもたちの話を聴く姿勢
等々を先生方から学び、「できた」時の達成
感をもに味わい、園児たちの輝く笑顔がた
くさん咲きますようにこの歌詞で結びます
いつもよろこんでいなさい たえずいのり
なさい

すべてのことについて　かんしゃしない
と考えがちな時期です。それを、物質的に貧しい世界の子供たちに気づかせ、自分の我慢に結びつけるようご家庭で取り組んでいるのです。誰かのために我慢するといった体験を、この時期の子供にさせるためには、親にも忍耐が求められます。頑張っている子供の姿とそれを応援している保護者の姿が、カードからしつかりと伝わってきました。

幼稚園で目指すことを、保護者が理解と共感をもってサポートし、力を合わせて教育できる環境にあることが、子供の成長につながると思います。この春、卒園する園児が、他を思いやる心を持ち、自分で物事を乗り越える力をもって自分の道を進むことを願っています。

高校二学年主任 及川 俊浩

コロナ禍で学校生活においても様々な制限が加えられている状況です。その一つが修学旅行の実施についてです。一昨年は中止、昨年は行き先と日程を変更しての実施となりました。今年度は十二月三日〜六日の日程で予定通りに関西方面に出かけてきました。直前まで感染状況を注視し、旅行中の対応等も協議しながらの出発となりました。

初日、朝早くの仙台空港集合にもかかわらず、遅刻する生徒は見られず、予定通り伊丹空港に向けて離陸。伊丹空港到着後、機内にて客室乗務員から「皆さん騒がずに乗ってくださいました。」との言葉をいただきました。バスに乗り換え一路奈良へ。奈良公園に到着後、昼食会場までの道でたくさん鹿と遭遇し、歓声が上がっていました。昼食後の東大寺大仏殿見学後、自由時間中には鹿せんべいを購入し、鹿と戯れる(襲われる)姿も目にすることが出来ました。興福寺へ移動し、阿修羅象等との対面を果たし、大阪のホテルへ。

阪、神戸方面に分かれての研修日。慣れない土地と、いろいろなこともあり、大阪駅等で迷った生徒も若干見られましたが、生徒諸君は充実した研修を行ったのか、両手いっぱいのお土産と楽しかったと物語る顔をしてホテルに帰ってきて、先生方に研修中の様子を話してくれる姿が見られます



三日目はホテルを朝早く出て、兵庫県立舞子公園へ。風光明媚な明石海峡大橋を見学後、生徒たちが一番楽しみにしていたユニーバーサルスタジオジャパンへ。予定よりも早く到着し、班ごとに写真を撮ってもらった後で入場。全国旅行支援のクーポンも使えたこともあり、両手いっぱい荷物を持つ姿やアークセサリを付けての姿なども見られました。この日は肌寒く夕方には雨も降ってきましたが、前日にホテルに戻ろうとする生徒は見られず、前日同様に楽しそうな顔でしたがホテルに戻ってしまいました。ホテルでは自宅に送り返す荷物をフロッグに持ってきた際に、体験した話や、購入したものを先生に見せようとしてくる生徒の姿も見られました。

最終日はホテルから京都に移動。最初に宇治の平等院に立ち寄りました。天気も良く、日の光を浴びた鳳凰堂前での記念撮影が出来ました。清水寺に移動し、昼食後、たくさんの人をさき分けるながら参道沿いの土産物屋で買い物をする姿も見られました。伊丹空港に移動し、予定通りに仙台北港に到着。たくさんのお出迎えの保護者の見守る中、解散式を行いました。了となりました。



疲れ等から若干体調を崩す生徒も見られましたが、その生徒たちも少し休むと回復し、みんなといったように楽しんでいました。様々な方々の協力と心配のもと、大きなアクシデントもなく、なんとか無事に行程を終えることが出来ました。

